

転移性骨腫瘍の早期診断法の確立に関する研究

2004年から2016年まで転移性骨腫瘍のため診療を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「転移性骨腫瘍の早期診断法の確立に関する研究」という研究を行います。この研究は、2004年1月1日より2016年12月31日までに日本医科大学付属病院整形外科にて、転移性骨腫瘍のために診療を受けられた患者さんの臨床情報を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただく前に、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：転移性骨腫瘍の早期診断法の確立に関する研究
研究期間：2017年3月1日（倫理委員会承認日）～2018年12月31日
研究責任者：日本医科大学付属病院 整形外科 北川 泰之

(2) 研究の意義、目的について

臨床的に問題となる骨転移はがん患者の20～30%、年間罹患数数十万人に上ります。しかし、骨転移の早期診断は困難であり、多くの患者さんは痛み悩み、ときに病的骨折や脊髄麻痺を合併します。骨転移の早期診断法の確立は、骨転移に伴う疼痛の早期緩和、病的骨折・脊髄麻痺の予防と早期治療につながります。本研究の目的は、日常臨床における骨転移の診断の状況を明らかとし、さまざまな臨床的要因を検討することにより、骨転移の早期診断法を確立することです。

(3) 研究の方法について

2004年1月1日より2016年12月31日までに日本医科大学付属病院整形外科にて、転移性骨腫瘍で診療を受けられた患者さんの年齢、性別、骨転移部位、組織型、発症日、初診日、骨転移診断日、初診時状況、骨転移診断時の状況、診断に至る経緯、骨転移と診断する上で有用だった検査、症状、血液検査所見、画像所見などの臨床情報と診断に至る期間との関連を統計学的に解析し、転移性骨腫瘍の早期診断法について検証します。

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 日本医科大学整形外科 准教授 北川 泰之
〒113-8603 東京都文京区千駄木1-1-5
電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：6754
メールアドレス：kitayasu@nms.ac.jp